

第14期 水彩・パステル科（6.7月活動報告）

1.受講日 2026年6月1日

2.テーマ 色彩について、絵具、色相図作成

テキストp12.13、参考資料P1～4

「人はデザインより色で決める時がある。それぐらい重要」

「絵の具が多ければ良いわけではなく、混ぜ過ぎると暗く濁る」

「3日ぐらい空けて改めて絵の色を見るのも良い」

「明るい色→暗い色を重ねていく」

「向上したいのか楽しみたいのか、どんな絵を描きたいのか設定して欲しい」

午後からはパレットに絵の具を出し、12色相環や補色、寒色と暖色の図に着色。

初めてのの方はまず色の名前が教科書と所有絵具とで一致せず困惑。。

午後から希望者には先生から1人3分間の個別指導をしていただいた。

先生の面白余談

「素晴らしい作品に出逢うと作家さんにいきなり連絡し工房を見せて頂く事がある。

無料と言うわけにはいかず小さな作品を買わせていただくが良いお値段になる事がある。」



1.受講日 2026年6月15日

2.テーマ 水彩技法（1）、水彩技法デモ

テキストP14～16

「商品の金額の差は同じ色でも色だしが違うから」

「紙の300g/m²は中間の厚さ」

「水槽の藻のように影がある方が良い。丸見えは良くない」

「マスキング液やロウソク、霧吹きの水に色を足してみるなど何でもアレンジしてみる」

「外のスケッチは午前、午後で場所を変える。軽く散策して良い所があれば座る」

講義の後、土方先生の水彩技法のデモンストレーションを見学。

筆の柄の部分で線を引くとその箇所に絵具が残り、筆では現せない繊細な表現が出来る。

生徒は時に歓声を上げながら様々な技法を食い入るように見入った。

午後から希望者には土方先生から1人3分間の個別指導をしていただいた。

先生の面白余談

「東京までの新幹線の中で絵を描いた事があるが、揺れが良い時もあれば描くのをやめてしまう時もある」



1.受講日 **2026年6月29日**

2.テーマ **水彩技法（2）、スライド（パステルA）**

テキストP17.18

「水彩画で修正が効かないのが構図。とても重要」

「あるがままに描かない。自転車の数を相応しい数に変更する等足し算 引き算する」

「郊外スケッチの際は75点ぐらいの場所を選ぶ」

「チューブのままの色は避けていただきたい。自分の色を作って欲しい」

「建物の角や木の枝等、目線より上の角度は逆V字、下の角度はV字」

スライドにてパステル画の14作品の構図の説明を受けた。

数名描かれている作品は向きや表情により安定感や動きを表現。計算された構図と知る。

土方先生の「水張り」のデモンストレーションを見学。

先生はホッチキスで直接木製パネルに貼り付けているとの事。

午後から希望者には土方先生から1人3分間の個別指導をしていただいた。

先生の面白余談

「レオナルド藤田が物資の無い戦時中、マッチ棒に絵を描いていたのは有名な逸話。

上官に「ポケットの中の物を出せ」と言われ、マッチ棒を出したが見逃してもらった」

「出品する際は募集要項の最大サイズ、最大枚数で出すように。

選考者の意図を組む事。同レベル作品で迷った際は枚数を描いた努力を買ってもらえる」

1.受講日 **2026年7月6日**

2.テーマ **水彩技（静物）（1）、パステル（1）歴史**

テキストP19、39

「同系色で全部集めない」

「影はまとまり役。ブルー系や補色を使う」

「程よい緊張感を持つ。人間関係と同じ」

「もう少しアレンジ出来ないか？もっと良くなならないか」を習慣にする。

「イメージが大事。意識が形になってくる。描き初めには既に出来上がっている」

土方先生のアンティーク計りを使いパステル技法のレクチャーを見学。

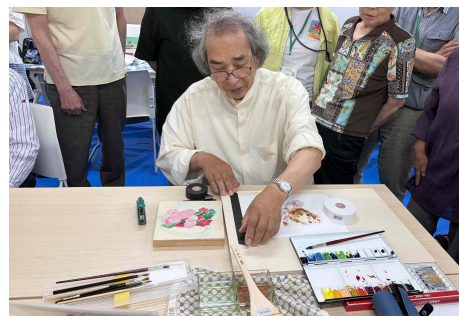
水彩画と違い混色しないので大胆に色を乗せていく。消しゴムで消せると聞き初心者の私は
ほっとした笑

午後から希望者には土方先生から1人3分間の個別指導をしていただいた。

14時からミーティング。10月の中ノ島で校外スケッチ、11月はあべのハルカス美術館「アンド
リュウ・ワイエス展」に決定。

先生の面白余談

「黒澤明監督は演者スタッフの再集合が難しいので晴れてるシーンで天候が悪いと墨汁で影を
描いた」



1.受講日 **2026年7月13日**

2.テーマ **水彩技（静物）（2）、パステル（2）技法**

テキストP20、40

「題材は面白い、と思える様に置く」

「絵を進めるには主になる大きな物から描く」

「人物画は顔を描くのがリードしている方が良い」

「私が描いてあげるよ、という気持ちで。描かしてもらう、ではない」

「どんな小さな物でも変化がある。それを感性で表現する」

土方先生のアンティーク計りを使いパステル技法P40のレクチャーを見学。

網で削ったパステルで描いた線は鮮度が良く美しさが引き立っていた。

午後から土方先生から1人3分間、全員の個別指導をしていただいた。

14時から土方先生から今期でこのクラスの終了とあとりえいまーじゅのご紹介。

また、ふれあい交流祭実行委員長の高橋さんから交流祭での作品出品準備についてのご説明があった。基本F6サイズ、1枚以上で当日持込み予定。

先生の面白余談

「商品は容器が大事。香水瓶は作ってもすぐ商品化しない。

暫く金庫に寝かせてから再度古さを感じないか等検討し商品化する」

1学期の講義が無事全て終了しました。

この4ヶ月で鉛筆デッサン、水彩画、パステルの様々な技法を教えていただき

その面白さと難しさを体験する事が出来ました。

2学期、3学期と更に技法知識が増えるのが今から楽しみです！

